

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 21 日現在

機関番号：32524

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2021～2023

課題番号：21K01063

研究課題名(和文) 多民族国家における移民宗教の融合と生成—マレーシアのヒンドゥー教と華人宗教

研究課題名(英文) Fusion and Creation of Immigrants' Religion in the Multi-Ethnic Country:
Hinduism and Chinese Religion in Malaysia

研究代表者

古賀 万由里 (Koga, Mayuri)

開智国際大学・国際教養学部・教授

研究者番号：20782345

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：多民族国家マレーシアにおいて、ヒンドゥー教と華人宗教が互いに混合し、新たな形と価値観を生み出しているが、またシンクレティズムの文化的・社会的・歴史的要因について明らかにした。文化的要因としては、図像的類似性、教義的類似性(多神教、化身、輪廻転生)、儀礼的類似性(憑依、自傷行為、火渡り)による模倣、神格の資質の変容により、神格の同一視と流入が生じていることが挙げられた。社会的要因としては、開発、土地問題、民族政策により両宗教が合祀または合体するようになったことが指摘された。歴史的要因としては、英領期およびその後の開発による、両民族の近接性や、結婚や養子縁組による文化の浸透性が挙げられた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

多民族国家では、宗教間の対立や紛争が絶えない。マレーシアにおいては、1969年以来、大きな宗教対立が生じていない。その背景としては、民族対立を回避する政策があるが、一方でマレー人優遇政策を続け、ムスリムと非ムスリムの心理的溝は開いている。移民宗教であるヒンドゥー教と華人宗教が、互いの価値観を認め、共同で寺院運営を行い、合祀または合体している現象は、多宗教の融和の可能性を示すものである。融和の要因として、文化や社会、歴史的要因を解明できたことは、他の地域での宗教対立を解決する一助となるであろう。

研究成果の概要(英文)：The study reveals how Hinduism and Chinese religions are mixing and creating new forms and values in multi-ethnic Malaysia, as well as syncretism's cultural, social, and historical factors. Cultural factors included iconographic similarities, doctrinal similarities (polytheism, incarnation, reincarnation), imitation through ritual similarities (possession, self-mutilation, fire-walking), and the transformation of the qualities of the deities of the deities, resulting in the identification and influx of the deities. As for social factors, it was noted that development, land issues, and ethnic policies have led to the merging or combining both religions. Historical factors included the proximity of the two ethnic groups due to development during and after the British period, as well as the permeation of culture through marriage and adoption.

研究分野：文化人類学

キーワード：マレーシア シンガポール ヒンドゥー教 華人宗教 シンクレティズム

1. 研究開始当初の背景

多民族国家であるマレーシアは、国教のイスラーム教を信奉するマレー人の他に、19世紀に移住してきた、仏教や道教を主に信仰する華人と、ヒンドゥー教を信仰するインド系住民がおり、それぞれ寺院や廟を建て、神仏を祀っている。地域によっては隣接して寺廟を建て、お互いの神仏を祀ってきた。このような現象をシンクレティズムと呼ぶ。シンクレティズムに関しては、概念の妥当性に関する議論（渡邊 1991, Stewart and Shaw 1994）や、二つの宗教間の関係についての議論がなされてきた（片岡 2014、外川 2006）。二つの宗教には、在来の宗教と外来の宗教間の関係を問うものが多いが、同時期に移住してきたもの同士の宗教の集合について、形態と要因が明かにされていない。また、民族と宗教集団の関係を問うだけではなく、多様な個人や、信仰よりも宗教活動に注目すべきである（市川 2001）。マレーシアで、ヒンドゥー教と華人宗教がいかに接触し、混淆しているのか、その背景にある文化、社会、歴史から見ていく必要がある。

2. 研究の目的

本研究の目的は、マレーシアのヒンドゥー教徒と華人が、互いにの神格を混合したり、宗教的行為を模倣したりするといったシンクレティズム現象の実態を解明することと、シンクレティズムを生じさせる要因を明らかにすることである。英領マラヤに移住してきたインド人と中国人が、独自の宗教文化を形成し発展させる過程において、両寺院は、形態や神格、礼拝様式などが融合したり模倣されたりしてきた。特に、華人の多いペナンや、華人とマレー人、インド人とマレー人の混血が進んでいるマラッカでは、混淆が多く見られる。また隣国のシンガポールにも、ヒンドゥー教と華人宗教が混淆する寺廟が多くするため、混淆する寺廟を中心に調査を行なう。そして、シンクレティズムの実態を明らかにするために、各地域の民族の文化、社会、歴史的要因について考察する。

3. 研究の方法

マレーシアとシンガポールにある、インド系移民と華人の宗教実践が混淆している寺廟で、両宗教の宗教実践者や信者たちの行為や言説を手掛かりに考察する。調査対象は、先行研究、インターネットや SNS 情報、聞き取り調査により決定した。

調査期間と場所は以下の通りである。

2022年8月、マレーシアのマラッカ、ペナン、クアラルンプール周辺で、寺廟の調査を行う。

2023年3月、シンガポールの寺廟を調査する。シンガポールで、華人が参拝するヒンドゥー寺院や、ヒンドゥー神を祀る華人寺院の調査を行った。

2023年8月、シンガポールの中元節の期間に、寺廟を調査する

2023年10月、マレーシアのマラッカにて、華人の運営するヒンドゥー寺院の大祭の調査を行なう。

2024年1月、マレーシアのクアラルンプール郊外でのタイプーサム祭に参加しながら調査を行う。またマラッカの寺院の聞き取り調査を行う。

2024年2月、マレーシアのマラッカにあるチェットィアールカーストの寺院の大祭を調査する。

4. 研究成果

ヒンドゥー教と華人宗教のシンクレティズムの形態として、以下のことが分かった。

- (1) 神格の同一性と流入：ヒンドゥー教と華人宗教の神格が同一視される、または流入される場合がある。

外見上の類似性により同一視される（図像的類似性）

華人の神、弥勒は、太鼓腹をしており、財神と認識されている。一方、ヒンドゥーの神、クベーラも太鼓をしており、財神とされており、両神は同じであると、見なされている。

また、華人の神、観音菩薩は、ヒンドゥーのマリアンマン女神と同一である、または姉妹であると言われる。観音菩薩は、インドでは男性であったが、中国にわたり女性となり、同じ女性でインド系移民に最も崇拜されているマリアンマと同じであると認識されるようになった。

ヒンドゥー教と華人宗教には、多神教という共通性があり、化身の概念で本来は別々の神が同一視されたり、兄弟姉妹と見なされたりすることがある（教義的類似性）

観音菩薩とマリアンマンの例の他、華人の神、大伯公とヒンドゥーの神、ムニーシュワランも男性神で複数の化身がいることから、兄弟であると見なされることがある。

財という現世利益を重視する華人宗教が、特定のヒンドゥー神を財の神として取り入れた（神格の資質の変容）

ガネーシャはインドでは障害を取り除く神で、寺院で最初に礼拝される。華人にとっては、ガネーシャは太鼓腹で富を表すため、財神とされている。このように相手の神の資質が変

容して流入され、広まっている。

- (2) 行為の模倣：両宗教では、祭礼や儀礼において、同様の行為や仕草を行う場合がある。憑依、自傷行為、火渡りは両寺院で見られる行為である。華人廟で宗教職能者らによって自傷行為（刃物でできた梯子を昇降する、熱湯に手を入れるなど）が始まったところ、ヒンドゥー教徒の宗教職能者も参加した。自傷行為は、具体的には頬に串を刺したり、背中にフックをつけて人や山車を曳いたりする行為である。ヒンドゥー寺院の大祭でヒンドゥー教徒に混じり、華人も同様の行為をしながら寺院へ向かう。こうした行為は、個人の請願成就によるものもあるが、寺院を中心とする華人グループが団体で参加する場合もある。
- (3) 寺院の統合：ヒンドゥー人と華人廟が、合体して一つの寺院となる、または別々の寺院をもちながらも隣接して設置し、同組織で運営する場合がある。寺院の関係者や信者らにインタビューを行い、両神々が祀られるようになった経緯や神々の関係、祭礼の形態、委員会組織、信者層などを把握できた。マラッカにある寺院では、寺院建設に関して、土地を含め多くは華人が出資しているが、インド系住民も出資している。また寺院委員会は、委員長は華人で副委員長はインド系住民が務めており、両民族の協力体制と融和が見られた。シンガポールは、特に合祀寺院や合体寺院が多く存在する。それは、国家の土地政策と関連しており、土地は原則所有できずに賃貸料を払い、30年ごとに更新料を支払わなければならないため、ヒンドゥー神の祠や寺院が、経済的に豊かな華人廟の敷地に置かれている場合がある。

以上のことから、シンクレティズムの生じる文化的要因としては、以下のことが挙げられる。両宗教とも多神教であり、他宗教に対して寛容である。化身の概念を用いたり、兄弟姉妹化したりすることによって、両者の神仏が同一、親族となる。憑依、自傷行為、火渡りなど共通の行為をもち、親和性がある。

また、社会的要因としては、以下のことが挙げられる。開発のために寺廟が移動する際、合祀または合体する。土地の所有や賃貸料の経済的問題から、土地や建物を共有するようになる。マレー人優遇政策により非マレー人同士間に親近性がある。

さらに歴史的要因として、以下のことが挙げられる。英領期に移住した際、近隣に住むようになった、または開発後に近隣に住むようになった。儀礼や祭礼の際、お互いの文化を取り入れ、模倣するようになった。結婚や養子縁組を通して、両文化が浸透した。

特にマラッカでは、シュリ・ムトゥ・マリアンマン寺院を中心に華人グループが形成されており、華人のヒンドゥー寺院および祭礼への参加とヒンドゥー文化の受容が進んでいる。特に華人の側にヒンドゥー文化が浸透しているのは、華人の宗教を超えたご利益の希求度が高いこと、他宗教への寛容性と、取り込みへの抵抗感の少なさが考えられる。

多民族国家マレーシアでは、ヒンドゥー教と華人宗教が神格の同一化や儀礼行為の模倣、寺院の一体化などを通じて、宗教が融合した状況が作られている。相互が完全に理解しているわけではないが、互いの権利を守りながら、影響を与え合っている。

<参考文献>

- 市川哲 2001 「マレーシアおよびシンガポールの華人社会の宗教的シンクレティズム再考」『史苑』62(1):71-95. <https://rikkyo.repo.nii.ac.jp/records/1514> 2024年1月19日閲覧。
- 片岡樹 2014 「複ゲームとシンクレティズム-東南アジア山地民ラフの宗教史から」杉島敬志編『複ゲーム状況の人類学 東南アジアにおける構想と実践』風響社 pp.239-266.
- 窪徳忠 1981 「マレーシアの土地神信仰」窪徳忠編『東南アジア華人社会の宗教文化』耕土社。
- 外川昌彦 2006 「シンクレティズム論再考：南アジアの聖者信仰におけるヒンドゥー教とイスラーム」『宗教研究』80巻1号 25-43。
- 渡邊欣雄 1991 『漢民族の宗教 社会人類学的研究』第一書房。
- Shaw, Rosalind and Charles Stewart 1994 "Introduction: Problematizing Syncretism", in C. Stewart and R. Shaw(eds.), *Syncretism/Anti-Syncretism: The Politics of Religious Synthesis*, pp.1-26. Routledge.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 古賀万由里	4. 巻 21
2. 論文標題 マレーシアにおけるインド人のエスニシティ形成	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『開智国際大学紀要』	6. 最初と最後の頁 83-95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 古賀万由里	4. 巻 2
2. 論文標題 民族と宗教の融合と寛容性 マレーシアとシンガポールのヒンドゥー教と華人宗教のシンクレティズム	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 グローバル・スタディーズから見たSDGs - 環境・社会・経済分野の多角的アプローチ	6. 最初と最後の頁 19-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Mayuri Koga
2. 発表標題 Formation of Malaysian Indian Ethnicity
3. 学会等名 The 12th International Malaysian Studies Conference (Via Zoom) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Mayuri Koga
2. 発表標題 Position and Transformation of Hindu Temples in Malaysia
3. 学会等名 the Crossing the Indian Ocean workshop (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 古賀万由里
2. 発表標題 マレーシアとシンガポールにおけるヒンドゥー寺院の変容
3. 学会等名 日本南アジア学会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------